

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」^{ほうそうげんこう} 放送原稿（7月26日（金）放送分）

テーマ 新着図書紹介

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様，おはようございます。^{か ごしまけんりつあま} 鹿児島県立奄
^{み としよかん} 美図書館です。

今朝は，^{あまみとしよかん} 奄美図書館の新着図書についてご案内します。

まずは，一般書のご案内です。

1冊目は、『冒険の遺伝子は天^{いただき} 頂へ』です。著者は，今年6月に80歳で三度目のエベレスト登頂に成功した三浦^{みうらゆういちろう} 雄一郎さんと三浦さんの次男，三浦^{みうらごうた} 豪太さんです。この本は，三浦さんがエベレストに出発する直前に書かれています。医学博士である豪太さんは，「冒険の遺伝子」というものがこの世に存在することを知り，数年前，家族の血液を採取して調べたことがあるそうです。三浦家は親子三代にわたる冒険一家ですが，三浦家からはその遺伝子が見つからなかった，という興味深い記述もあります。冒険家にとって必要なものは，自分の目標に対してトキメキを持ち，好奇心を抱いて生きていくことであると書かれています。冒険心を持つのに年齢制限はありません。たくさんの元気をもらえる本です。

2冊目に紹介するのは、『ぼくは，図書館がすき』という写真集です。著者の^{うるしばらひろし} 漆原 宏さんは，写真家として40年近く図書館を見続けてきました。この本は，全国各地の図書館の日常を写真に収めたものです。「わあっ，この図書館いいな。行ってみたいな。」と思えるような居心地のよい図書館が次々と出てきます。また，一見，図書館の何気ない風景であるのに，そこに人と人との出会い，そして，人と本との出会いを感じることができ，心の安らぎを感じる写真集です。鹿児島県内の，とある図書館もこの写真の中に出てきます。一人でも多くの人に，「こんな風景，図書館で見たことある！」と感じてほしいです。

次は，児童書をご案内しましょう。

1冊目は、『おばあちゃんのひみつのあくしゅ』という絵本です。遠くに住むおばあちゃんが，時々ラリーのおうちに遊びにやって来ます。おばあちゃんは「二人だけのひみつのあくしゅ」と言って，ラリーの手を三回握り，“だい・すき・よ”の意味よと言います。しかしラリーはそれがあまりうれしくありません。それはなぜでしょう。次におばあちゃんが遊びに来たとき，嵐がやって来ます。おうちも町も大変なことになると思います。その結果，いったいどんなことが起こったのでしょうか？ラリーの気持ちの変化を感じ

じ取ってみてください。

2冊目は、シンシア・カドハタ著『象使いティンの戦争』という本です。この本を書いたカドハタさんは、シカゴ生まれの日系三世です。11歳の少年ティンは、ベトナムの都市からはなれた高地の森の中で象使いをしています。家族とおだやかに暮らしていましたが、やがてベトナム戦争に巻き込まれていきます。象はティンに幸せを与えてくれますが、愛する象の命を守るために、ティンはある決心をします。今から40年近く前のベトナム戦争が舞台のお話で、その中でも、南ベトナムの少数民族にスポットをあてたお話です。

最後は郷土に関する本のご案内です。

原田マハさんの小説、『花々^{はなばな}』を紹介します。2009年の出版です。沖縄の島と、与路島・加計呂麻島を舞台にしたお話です。それぞれに異なる境遇^{きょうぐう}を持つ女性たちが、旅人として島にやって来ます。そこでさまざまな人たちとふれあいながら、前向きに生きていこうとする姿をえがいています。デイゴの花、サガリバナなど、いくつかの花がストーリーにアクセントをそえています。やはり島には人を元気づけるパワーがあるのかもしれない、と思える1冊です。

夏休みに入りました。1階の児童閲覧室^{じどうえつらんしつ}入口には、夏休みの自由研究のヒントになる本や、夏のお話、夏を感じる絵本などをまとめて置いています。また2階閲覧室には、学習をサポートする本や、親子で楽しめる自由研究に役立つ本などをまとめて置いています。奄美図書館は、あなたの自由研究を応援します。ぜひご利用ください。

以上、鹿児島県立奄美図書館^{かごしまけんりつあまみとしょかん}でした。